

## 清正の本城と支城

### 1 序章

肥後の近世は天正15年<sup>1587</sup>の豊臣秀吉「島津征伐」(九州動座、九州征討)に始まる  
 天正15年5月13日、秀吉「城を拵え、物主(城主)を仰せ付け、要らざる城をワラセル」  
 天正15年6月、「九州仕置」で肥後は佐々成政領知→新興・旧族大名が織豊系城郭を普請  
 天正16年閏5月14日、成政の切腹、翌15日、加藤清正、肥後半国19万4千916石を領知  
 天正16年8月、秀吉は年貢取立ての10月まで小早川隆景・筑紫広門・龍造寺政家・松浦鎮信等  
 九州の有力大名に肥後諸城での在番と「造作」継続の指令  
**★在番大名滞在の城郭は、後に支城に取り立てられた可能性**

### 2 加藤清正の本城、熊本(隈本)城

城久基の居城→天正15年、豊臣秀吉在城→佐々成政の本城→加藤清正の本城  
**★佐々成政は下着直後から一揆対応→織豊系城郭への本格的改修の余裕なしカ**

#### (1) 地理的環境

古代・中世以来、幹線道が通り肥後の政治経済の中心地に近接  
 石垣に適材の石材産地に近接  
 茶臼山の広い台地と新堀の地峡は天然の要害  
 火砕流起源の弱固結凝灰岩が地盤(空堀掘削が容易で切岸上部に石垣築造も可能)

#### (2) 熊本城築城(普請・作事)の編年(試案)

①第一期〔天正16年<sup>1588</sup>～慶長3年<sup>1598</sup>〕(古城での)隈本城築城  
 (天正18年)2月、「磊」(ライ=石垣)と堀の普請は念入りに！という清正指令  
 (天正18年)4月、本丸の「おうへ」(御殿)用の材木の準備、  
 天守への橋が完成次第、大川(白川)に橋を架けるように！という指令  
 天正19年8月、大唐出陣のための名護屋城普請に加藤・小西・黒田が担当  
 文禄元年～慶長3年、朝鮮出兵に伴う(西生浦倭城の)築城と(蔚山倭城に)在陣  
**★朝鮮出兵は織豊系城郭の縄張りや石垣技術の習得の機会となった**

#### 【出陣先からの清正指令】

侍町の惣構えの塀は丈夫に作れ！本丸の塀は不要！表門櫓の下は入念に！  
 御城本丸「おうへ」の作事の完成や門や矢倉の際、古殿主(小天守)の完成を急げ！

初期隈本城の主郭は、三方を濠・川が囲み石垣を廻した2郭と切岸だけの上段で構成  
 本丸には天守・小天守・おうへ(御殿?)・表門櫓とその下に橋が存在し惣構えに塀  
**★慶長期前半まで東側は外濠とした白川旧河道 東面石垣は細川時代に撤去?**  
**★慶長期後半に現河道に付替え(高校グラウンド～桜馬場～手取口は忠広時代に埋立)**  
 侍町は現新町 西側を直線水濠で防御(鍵型街路、短冊形街区、高麗門)  
 古町は町屋で1区画1町四方の碁盤目街区、9分割した中心は寺院用地  
**★白川の旧河道を利用した惣構え内に侍屋敷・町家を包括した都市計画**  
**★新城普請に伴い、新町の侍屋敷の街道沿いには町家が立地し混住地区となる**

②第二期〔慶長4年<sup>1599</sup>～慶長7年<sup>1602</sup>〕 新城の築城着手～中核部完成期  
 慶長3年8月に秀吉逝去→朝鮮撤収→国内動乱の予兆→築城ラッシュへ  
**★蔚山での過酷な籠城戦を体験した清正は、城郭の重要性を再認識か**  
 慶長4年3月、清正重臣、御城普請での百姓動員禁止を改めて指示  
 慶長4年4月、清正、家康の養女(水野忠重の娘)を正室に迎える 家康方に傾倒?  
 慶長4年7月、隈本城では百姓を使役し昼夜兼行で普請。「内牧の城普請も同様にせよ！」  
**★新城本丸を中心に「慶長四年八月吉日」銘の滴水瓦(朝鮮系軒平瓦)出土**  
 慶長5年8月12日、「肥後・筑後両国進置之間、**成次第**可被申付候」という家康書状  
 慶長5年9月13日以降、「履道應乾」(正しい道を行って、天に伝える)の印判使用を告知  
 慶長5年9月の関ヶ原戦と同時期、清正は籠城する宇土城・八代城を10/17頃に降す  
 →10/25に柳川城(立花宗茂)を降す  
 →加藤・黒田・鍋島・立花は島津攻撃に薩摩境津奈木・水俣まで出陣 11/22 撤収  
 慶長5年10月26日、隈本の「新城」での如水もてなしのため、天守の完成を急がせる  
 慶長7年10月、「出丸にて十八棟の末に大黒矢倉出来・・・」  
**★着手から4年後には大黒櫓(戌亥櫓)のある西出丸まで完成**

慶長3年の秀吉逝去と同時(契機?)に茶臼山に新城普請を企画  
**★領土獲得戦争到来の予兆→急ピッチで本丸築造に傾注→慶長5年冬、天守略完成**  
 慶長7年、西出丸までの防衛ラインが完成したことで、本丸はほぼ成就  
**★数寄屋丸・飯田丸下段・元札櫓石塁・山崎口周辺など**  
**★19万石の領主の国力で茶臼山台地で築城は分不相応の規模**  
 関ヶ原戦後の論功行賞で肥後一国(54万石)を拝領 結果的に大大名となる  
**★家康の確約「肥後・筑後の成次第」→野望に見合った本城普請を帰朝後には実行**  
 西軍方の薩摩の島津や球磨郡の相良に対する清正の不信感・警戒心  
**→宇土城・八代城・佐敷城・水俣城・国境に至る4段構えの防衛線を築く**

③第三期〔慶長8年<sup>1603</sup>～慶長12年<sup>1607</sup>〕 初期本丸の完成期  
 本丸北東部を拡張し長局御櫓(御殿奥向)を増築  
 平左衛門丸北西隅に五階櫓(現宇土櫓)・続櫓を建造  
 東竹の丸外縁を切岸から高石垣に改修  
 慶長11年、江戸城手伝い普請 日比谷 **★奉行は森本義太夫**  
 同年、駿府城手伝い普請 **★穴太衆派遣**  
 慶長12年、熊本城天守の井出(井戸カ)普請 **★駿府城手伝い普請終了**  
**同年、「御城出来」、隈本を熊本に改名する触れ**  
**慶長国絵図の提出で正式地名となる**

本丸の増強と二ノ丸の普請 ⇒清正の当初計画の縄張りが完成カ  
 熊本への改名(佳名への変更)→新城完成で加藤家統治の祈念や示威  
**★若松城、福岡城、福井、福山城、徳島城、富岡城、高松城、**

④第四期〔慶長12年<sup>1607</sup>～慶長16年<sup>1611</sup>〕 本丸の拡充期

慶長15年、名古屋城手伝い普請 \*清正惣奉行で天守台担当 小代下総らの参加  
同年4月、(普請が完了した)大広間(本丸御殿)と花畑屋敷の作事に着手  
\*この頃白川の付替えが完了

慶長16年6月24日、清正逝去 \*忠広が継ぐ

- ★二の丸の虎口・百間石垣などの外縁の塁線が完成
- ★「二様の石垣」は御殿の基礎⇒作事(建築)の前に拡張工事は完了
- ★慶長12年以降、宇土城・佐敷城・水俣城など、支城の増強・整備へ

⑤第五期〔慶長17年<sup>1612</sup>～元和元年<sup>1615</sup>〕 熊本城完成期

慶長16年冬、幕府は肥後仕置き監察役に藤堂高虎を派遣 高虎は肥後絵図作成  
⇒幕府に報告 \*支城の城割に高虎が関与した可能性

慶長17年6月27日、幕府の9か条の仕置き \*幕府が干渉し新規大名扱い  
宇土・矢部・水俣3城の破却 \*宇土城天守を本城小天守に移築する記録あり  
宇土・矢部の家臣団の熊本城下集住、支城の城番の交替など

竹之丸・桜馬場・古城東麓の坪井川護岸石垣建造⇒平御櫓・長堀の石垣の造営

- ★慶長17年破却の支城の部材を移築して小天守・飯田丸五階櫓・花畑屋敷などを建造カ
- ★白川の流路付替えて惣構えを拡張し外濠化 山崎地区は下屋敷や家臣居住地へ

⑥第六期〔元和元年<sup>1615</sup>～寛永9年<sup>1632</sup>〕 熊本城造営凍結・管理期へ

慶長20年3月、大阪夏の陣で豊臣家滅亡

慶長20年閏6月、「一国一城令」で居城・八代以外の支城の南関・内牧・佐敷を破却

慶長20年7月13日、「元和」に改元 (元和は「平和のはじまり」の意味)

元和元年7月、武家諸法度の発布で新規築城の厳禁と居城修補での届出の義務化

元和5年、地震によって八代麦島城倒壊という⇒松江に移転造営、同8年に完成

元和6年、大坂城手伝い普請 大手門寄り総石垣・内曲輪

元和8年、江戸城天守台手伝い普請

寛永2年、大坂城手伝い普請 天守台

寛永6年、江戸城手伝い普請 和田倉～桜田門間の石垣

- ★「一国一城令」「武家諸法度」の発令は徳川の天下を推し進める幕府の強い意思の表明
- ★幕府の政策基調に整合する場合は築城許可(八代城・島原城・浜田城・備後福山城など)
- ★大名居城は「正保城絵図」の提出を画期に完全固定化し、現状維持が原則となる

■寛永9年、細川忠利入国 寛永11年には石垣増築や櫓、門の新規建築を多数申請  
\*手取出口や山崎出口の櫓建造、新堀の拡張など、外縁部を中心に縄張り補強を目指す  
\*寛永21年の実績報告では、申請28櫓中8櫓、申請12門中3門を完了

★最終的に熊本城は細川忠利によって完成

3 史料に見る清正の支城

- (1) 慶長5年までの半国領主時代の支城の実態は不明  
熊本城(古城)・関ノ城・阿蘇城・佐敷城が清正領国の本城・支城
- (2) 慶長5年～慶長10年頃に支城に追加された城  
津奈木城と水俣城(豊臣直轄地時代城代に深水宗方⇒寺沢領→小西領→加藤領)  
加藤領編入後の津奈木城代(森本義太夫・加藤内匠・平野五郎左衛門長時・小代親泰)  
水俣城(加藤百助?→中村将監)  
\*国絵図にない津奈木城は、慶長10年頃以前に廃城した短命な城  
\*慶長10年頃までに廃城や移転の城⇒大津山城(初期の関ノ城、加藤清兵衛)、  
高瀬城(瀬田又兵衛)、隈府城(加藤伝蔵)、田浦城(長尾善政・加藤与左衛門)
- (3) 慶長12年頃成立の国絵図には、**熊本城**のほかに**関ノ城**(南関城)、**阿蘇城**(内牧城)、  
矢部城(愛藤寺城)、宇土城、八代城、**佐敷城**、水俣城の7つの「端城」(支城)

- 佐敷城・水俣城に「慶長十二年」銘の**同範軒平瓦**出土
- 宇土城でも慶長十三年銘の**滴水瓦**出土
- ★慶長12年の本城熊本城主要部の完成⇒支城の天守建造など本格的改修に着手カ

- (3) 慶長16年「肥後之壱国内城数之事」に見える城名・城代・その石高
  - ①八代城 3000石 井藤新五左衛門尉 忠広代に加藤右馬允
  - ②宇土の城 3500石 中川太郎平
  - ③佐敷城 8000石 加藤与左衛門尉(本姓渋谷、元佐々成政家臣)
  - ④水俣城 3500石 中川しょうけん(中村将監の誤り)
  - ⑤内牧城 10000石 加藤(右)馬允
  - ⑥南の関城 10000石 加藤たんこ(丹後)
  - ⑦高瀬の城 800石 せ田又左衛門尉 \*国絵図になし
  - ⑧矢部の城 10000石 加藤万兵衛・長尾善政
  - 豊後二郡の内 \*陣屋とみられる
  - ⑨九重の城 2000石 しま田助右衛門尉
  - ⑩野津原城 2000石 加藤平左衛門尉
- \*萩藩隠密による聞き書きで信憑性に若干の疑問。高瀬の城や豊後の飛地領も含む
- (4) 慶長17年、幕命による三城(宇土城、矢部城、水俣城)の破却  
\*藤堂高虎が特命で前年から監察し地図を作成し家康に報告⇒城割に反映カ
- (5) 慶長20年、「一国一城令」による居城と八代を除く支城の破却  
\*八代城は元和5年地震で被害→球磨川北岸の松江に移転し元和8年完成  
\*地震を裏付ける確実な史料なし 果して地震は本当にあったのか?
- (6) 寛永15年、キリシタン一揆後の幕府指令で細川忠利は古城の再破却を実施  
関城、宇土城、佐敷城、水俣城、合志の古城など